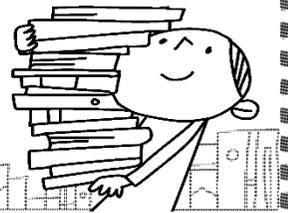


みんなでつながる わ!



今回は、5年生の研究授業の様子を紹介します。

5年生は、読む教材「固有種が教えてくれること」で学んだ説明文での資料の活用法を、意見文を書く教材「自然環境を守るために」に活かす学習をしました。

ストップ環境問題～みんなにわかりやすく伝えよう～
 「固有種が教えてくれること」
 「自然環境を守るために」5年生

本時の目標

- ・書くことにおいて、引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思B(1)エ)

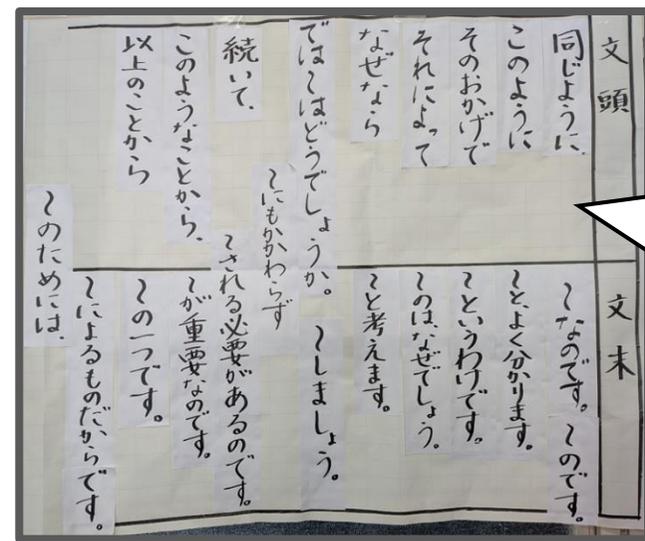
本時の流れ(本時9/10)

- ① 学習の見通しをもつ。
さらに伝わるわかりやすい意見文にしよう。
- ② 同じ環境問題のテーマを選んだペアで、意見文を読み合い、交流する。
・「よいところ」「もっと伝わるようにできそうなところ」を話し合う。
- ③ ペアで交流したことを、全体で共有する。
- ④ 本時の学習を振り返る。
・推敲前後での気づきや、交流して分かったことなどを書く。

環境問題のテーマは、子どもたちから提案された「地球温暖化」「森林伐採」「食品ロス」「ゴミ問題」から、選択。

時間	学習内容
①	学習計画をたてよう。
②	文章構成をとらえよう。
③	筆者の主張をとらえ、要旨をまとめよう。
④	文章と資料のつながりを読み取ろう。
⑤	資料の効果や説明のくふうを考えよう。
⑥	テーマを選び、例文から表現を学ぼう。
⑦	構成メモを作ろう。
⑧	構成メモをもとに意見文を書こう。
⑨	さらに伝わる意見文にしよう。
⑩	意見文、発表会!

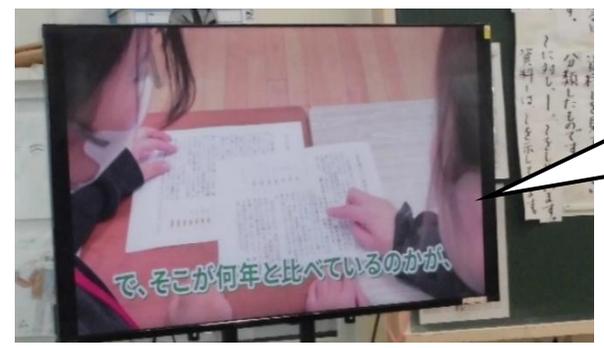
ストップ環境問題
 ～みんなにわかりやすく伝えよう～



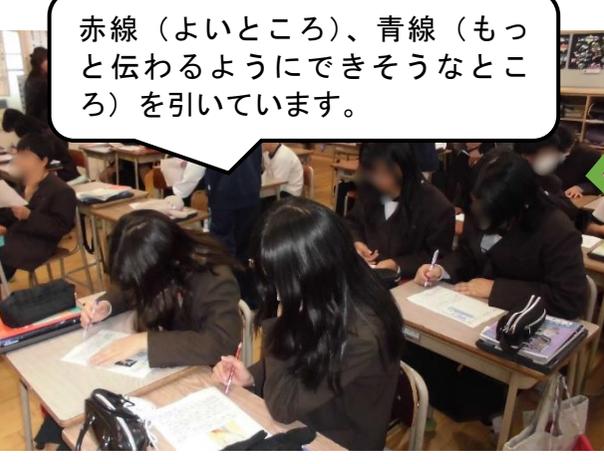
掲示物の工夫
 「資料を用いて書くときの言葉」(黒板に掲示 ※1)だけでなく、意見文を書く時に使えるような文頭・文末の言葉を「固有種が教えてくれること」や教科書の例文から集めました。
 【3・5時】

説明文「固有種が教えてくれること」で捉えた文章の全体構成を掲示。
 意見文の文章を構成する際の参考になりました。

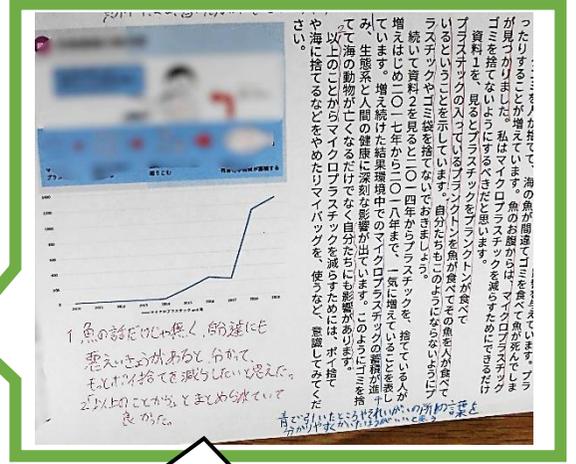
初め	中1	中2	見出し・重要
① 固有種とは何か。	④ 日本に固有種が多いわけ。	⑨ 固有種の保護。	大まかに...
② わたしは固有種たちが住む日本の環境を残したい。	⑤ 固有種が生まれる理由。	⑩ 保護は生息環境を残すことが重要。	細かい
③ イギリスと日本の固有種の数比べ。	⑥ イギリスに固有種が多いわけ。	⑪ 固有種が減少している現状。	筆者の主張
	⑦ 日本の固有種が長い間生き続けたわけ。	⑫ 固有種が減少している理由。	資料1
	⑧ 固有種が減少している現状。	⑬ 固有種が減少している理由。	資料2
		⑭ 固有種が減少している理由。	資料3
		⑮ 固有種が減少している理由。	資料4
		⑯ 固有種が減少している理由。	資料5



教師のモデル動画では、手元を映し、グラフと文章を比べている様子が分かるようにしています。



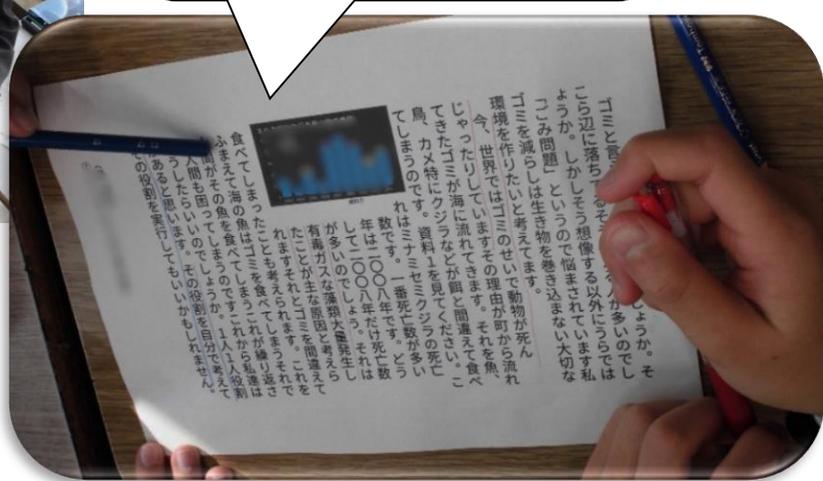
赤線(よいところ)、青線(もっと伝わるようにできそうなところ)を引いています。



線を引くだけでなく、読んで共感した感想を書く児童も...

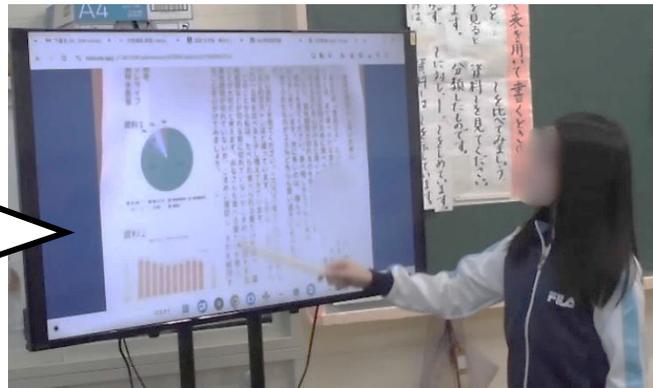


『～を実行してもいいかもしれませんが。』を『～を実行しましょう。』にした方が、説得力がある」とアドバイス。

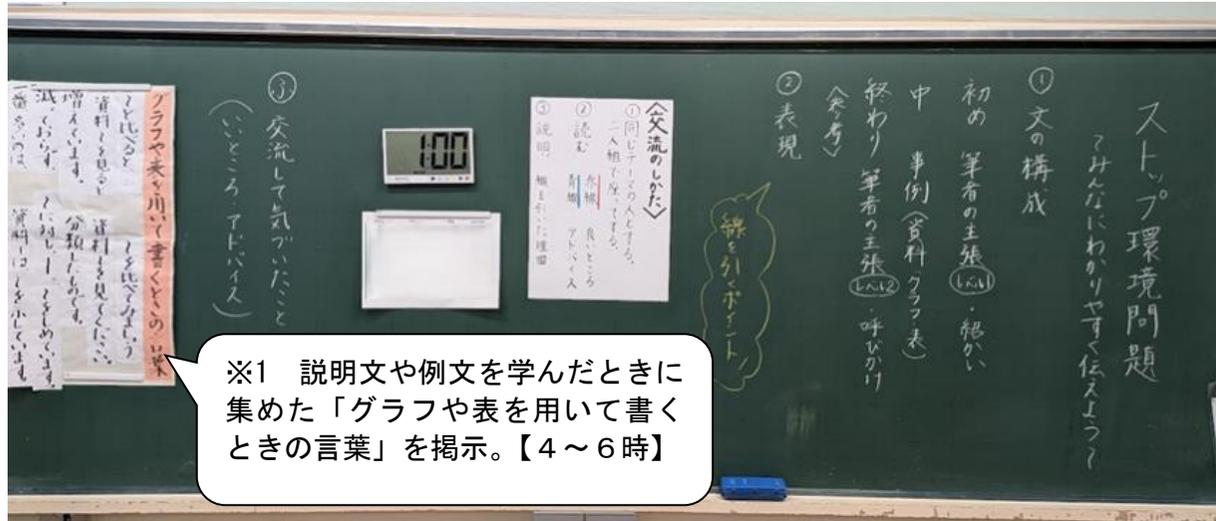


ペア交流

全体交流



ペアで交流した内容を全体で共有。褒められたところ（赤線）、アドバイスしてもらったところ（青線）をみんなに説明していました。



※1 説明文や例文を学んだときに集めた「グラフや表を用いて書くときの言葉」を掲示。【4～6時】

【研究協議より】

- ・持ち運びが便利で、交流後打ち直しをさせたかったので、紙媒体での交流となった。
- ・テレビ画面だと細かい文字が見にくい。画面共有して説明させてもよかった。
- ・モデル動画によってスムーズな交流となったが、交流内容が動画で紹介された視点に偏ってしまった傾向がある。主張の強さ、事例との関係など、もう少し深く交流してほしい。
- ・浅い交流で終わっている児童もいるが、中には主張を強くする表現などに気づき、話し合う児童もいた。交流とその体験との繰り返しで、深い話し合いに発展していくのではないかと。
- ・次時で、テーマごとに優秀作品賞を選び、発表会を行った。最優秀作品を四年生に紹介するゴールとなっている。

できあがった作品の一例

【参考】
「海洋ゴミの現状」（全国中学高校webコンテストまいづらウェブサイト）
「プラスチックごみの問題に取り組み、みんなが考えるきっかけに」ネスレ日本株式会社「教育総合サイト EduTown-SDGs取組事例（東京書籍ウェブサイト）」

身近なことから始めよう

ゴミ問題を解決することにより、環境を守ることが出来ます。まず、ゴミ問題は、ゴミを捨てる量が多くなり、地球温暖化などの問題がゴミを捨てることにより引き起こされることです。僕は、このゴミ問題や地球温暖化を止めるために、プラスチックの廃棄量を減らしたらいいいと考えます。

資料①は、世界のプラスチックの生産量を表したものです。二〇〇六年から二〇〇七ごろを見ると、二千万七減っています。その後、一億七増えています。続いて、資料②を見てください。プラスチックの年間廃棄量は、一四〇〇万七とスキャットリー三百九十基という多さです。

以上のことからプラスチックゴミは減らすべきだと思います。皆さんもリサイクルなど、身近なことから始めようではないでしょうか。

資料②

プラスチック 1,000リットル

資料①

世界のプラスチックの生産量

～授業者から～

書くことに苦手意識がある子が多かったので、「書く」に焦点を当てて計画を立てました。資料の効果や文の構成について繰り返し復習をすることで、自分の力で意見文を書くことができていました。交流、発表を通して、自分の言葉で「話す」ことにつながったのも良かったです。